

# 長野県植物研史者伝 4

矢沢米三郎 抄伝

丸山利雄

T. Maruyama : Biography of Mr. Y. Yazawa

長野県出身の植物研究者として、主として、長野県内に居住し、明治・大正時代の長野県内の植物研究の中心的指導者であったのは、矢沢米三郎（1868—1942）氏である。

その履歴の要は、次の通りである。

1868（明治元年） 現在の諏訪市中洲の上金子、当時寺小屋の師匠であった矢沢正雄氏の長男として生れた。

1889（明治22年） 21才、長野県尋常師範学校卒業。これは、その後研究や学校経営で強力な協力者であった河野齡蔵氏の卒業と同時である。同年より長野県尋常師範学校訓導。

1890（明治23年） 22才、高等師範学校に入学。

1893（明治26年） 25才、同校卒業。この在学中長野県出身の斎田功太郎教授の指導を受ける。

1893（明治26年） 25才、長野県尋常師範学校教諭。この年、師範学校同級生の河野齡蔵氏と学術研究のために乗鞍岳に登る。当時信仰のための登山はあったが、学術研究のための登山は、まれであった。

その後、八ヶ岳・白馬岳にも矢沢・河野両氏の登山が続き、長野県における高山の学術的研究の開祖ともいわれた。

この年また、学術研究団体「長野博物学会」ができ、会員として矢沢米三郎・羽田貞義（長野県尋常師範学校教頭）・渡辺敏（長野小学校長）・金井汲治（明治10年長野県尋常師範学校卒業生）・清水長野営林署長などの名が見られる。

1896（明治29年） 28才、長野県尋常中学校教諭兼任。

1898（明治31年） 30才、高等師範学校研究科入学（当時高等師範学校校長は矢田部良吉博士、博物科教授の斎田功太郎博士はドイツ留学中）。

この高等師範学校研究科入学のため、「長野博物学会」は自然消滅。このことから、「長野博物学会」における矢沢氏のリーダーシップがうかがえる。

1899（明治32年） 31才、高等師範学校研究科在学のまま、高等師範学校博物科講師嘱託。

1900（明治33年） 32才、研究科修了、長野県師範学校教諭に復帰。（明治31年より長野県尋常師範学校は、長野県師範学校と改名）

1902（明治35年） 34才、信濃博物学会を結成し、「信濃博物学雑誌」を刊行する。この雑誌は、大正2年（1913）39号で、第1次世界大戦発生時に廃刊。

この年5月23日、皇太子殿下長野県師範学校に行啓、学生田中貢一らと戸隠において採集したトガクシショウマの鉢植えを台覧に供し、東宮御所に献納する。

1905（明治38年） 37才、長野県松本女子師範学校校長。この時、河野齡蔵氏が同校の教頭となった。

1910（明治43年） 42才、信濃山岳研究会が発足し、会長となる。この会は、大正8年（1919）信濃山岳会と改名、昭和19年（1944）戦時統制のため解散。

1912（明治45年） 44才、中等学校長会議で、中等学校博物科担任教員の協議会を建議し、発足させ、「信濃博物調査会」の名で、県費等の補助を得、動・植・鉱物等の各種標本を集め、研究の資料とすることとした。尚その標本は、長野・松本両師範学校に保管することとした。

1924（大正13年） 56才、4月20日、長野県師範学校校長、同年10月9日同校退職。

退職後も、松本在職中より引き続いて、長野県史跡名勝天然記念物調査委員として、県内の調査に当たり、大正12年（1923）より昭和12年（1937）まで15篇の調査報告書を著している。

1936（昭和11年） 66才、神奈川県逗子町に転居。

1942（昭和17年） 73才、3月31日、神奈川県逗子町で逝去。

尚、大正14年（1925）発足した県内中等学校博物科教員の会は、昭和3年（1928）会則を改めて小学校教員やその他の有志者の参加を認めるようになり、名を信濃博物会としたが、この会の昭和7年から11年までの会長も矢沢米三郎氏であり、副会長は河野齡蔵氏であった。

ちなみに氏の実弟三村安治（1870～1931、後町小学校長・諏訪高等女学校校長等歴任）氏の長男一氏は、昭和37年から43年まで、信州大学長であった。

氏の著書としては、次のものがある。中等新植物教科書・植物実験学・帝国植物学提綱・昆虫生態学・植物実験法・鳥獣虫魚・日本アルプス登山案内（河

野齡蔵氏と共著 1917 岩波書店より発行)・上高地(1928 岩波書店より発行)・信濃郷土叢書第9編信濃天然紀念物(1929)・雷鳥(1929 岩波書店より発行)・日本アルプスの研究(1935 三省堂より発行)。

尚、筆者は昭和2年度(1927)長野県師範学校専攻科に在学したが、その時、学生の希望が入れられ特別講師として、週1回植物学の講義をうけたが、その際、氏の原稿を謄写印刷して受講者にわたしたものに、日本高山植物名彙があり、それには、691種の高山植物があげられている。

氏は、これらの著作にも見られる通り、植物の研究のみでなく、動物分野についても研究され、特に高山の昆虫や鳥類などについての研究もあり、昆虫については十数種の新種の発見があり、また雷鳥の生態についてのわが国の学術的研究の最初の学者でもあったようである。

また、ウェストン(Walter Weston 1860-1940)が、英国の山岳会や地理学会に日本アルプスを紹介したのとほとんど同時に、氏は日本国内に、日本アルプスを紹介した。

氏の発見・新産地発見、並びに氏の名を学名にとどめたものなどとして筆者の知る植物は、次のようである。

ヒメスミレサイシン 1900年、氏の指導する長野県師範学校の学生田中貢一氏が戸隠山で採集、1902年牧野富太郎氏によって *Viola yazawana* Makino と命名された。現在は県内各地の高山並びに山梨県・栃木県にも分布することが知られている。

ミヤマハナワラビ(一名カラフトハナワラビ) 1845年発表のものであるが、国内では1901年、氏の白馬岳での採集が最初であった。現在は県内の高山の外、富士山・白山等でも知られている。

クモマキンボウゲ 欧亜・北米の亜寒帯に分布するものであるが、日本では1901年、氏の白馬岳での確認が最初であった。

タカネキンボウゲ 前種と同じ年、同じ山で発見されている。これは発見当時は、外国産のものの新産地の発見と考えられたが、その後の研究で日本特産のものと考えられ、大井次三郎氏によって *Ranunculus shinanoalpinus* Ohwi と命名され、長野県特産種であることをも示している。

ムカゴユキノシタ 1901年白馬岳ではじめて採集、この植物も北半球の寒地及び高山の水湿の多い岩地に分布するものであるが、国内では長野県内の北アルプス・南アルプス・八ヶ岳での分布が知られてい

る。

ヒメミズニラ 1903年野尻湖で発見。1914年牧野富太郎氏によって、*Isoetes asiatica* Makino と命名されている。その後この植物は、本州中部以北・北海道・南樺太にも分布することが知られ、潮沼の浅い泥崖で採集されている。

トガクシデンダ 1904年戸隠の乙斐山で発見。1904年牧野富太郎氏によって、*Woodsia yazawai* Makino と命名されたが、その後の研究によって、1823年発表の *Woodsia glabella* R. Br. (カラフトイワデンダ) と同一であると考えられている。このものは、朝鮮・中国・樺太・カムチャッカ・シベリア・北アメリカにも分布しているという。国内でもその後、北海道・八ヶ岳・南アルプスなどで見出されている。

コタヌキモ 1904年、はじめて霧ヶ峰で採集。この植物は、外国では1799年に発表され、欧・亜・北米などで知られていたものであるが、日本では前記の通りで、その後、北海道・本州・九州に分布することが知られている。

ヒナリンドウ 1904年、河野齡蔵氏と共に八ヶ岳で発見。その年牧野富太郎氏によって、*Gentiana pseudo-humilis* Makino として発表されたが、その後、これは中央アジアなどにある *G. aquatica* L. の隔離分布であるとされている。日本では八ヶ岳の特産となっている。

ミヤマイチゴツナギ 1904年、早川隆助氏・河野齡蔵氏と共に発見。1925年大井次三郎氏の八ヶ岳の採品によって、*Poa malacantha* Kom. var. *shinanoana* Ohwi の学名が与えられている。一名タカネイチゴツナギともいう。

カマナシシモツケ 1908年、釜無山で採集。1910年、牧野富太郎氏によって *Spiraea yazawai* Makino と命名し発表されたが、その後の研究によって、アイズシモツケと同じものであることが、明らかになった。

#### 参考文献

- 信濃毎日新聞社編 信州の教師像  
" 長野県百科辞典  
杉本順一著 長野県植物総目録  
牧野富太郎・根本莞爾共著 日本植物総覧  
大井次三郎著 日本植物誌  
丸山利雄著 信濃の植物・秋津の生物